

法多山尊永寺の門前町を新しく、「商う空間」と「宿まる空間」に再計画する。

現在町は、観光会社との連携事業が廃止した80年代から90年代を経とした観光客数の低下によって、町の懶怠の空洞化が発生している。観光依存の弊害が現れたといえる。そこでこの先、門前町が継続的かつ赤字解消状態にあるためには、「商う空間」への新たな付加価値が必要ではないだろうか。

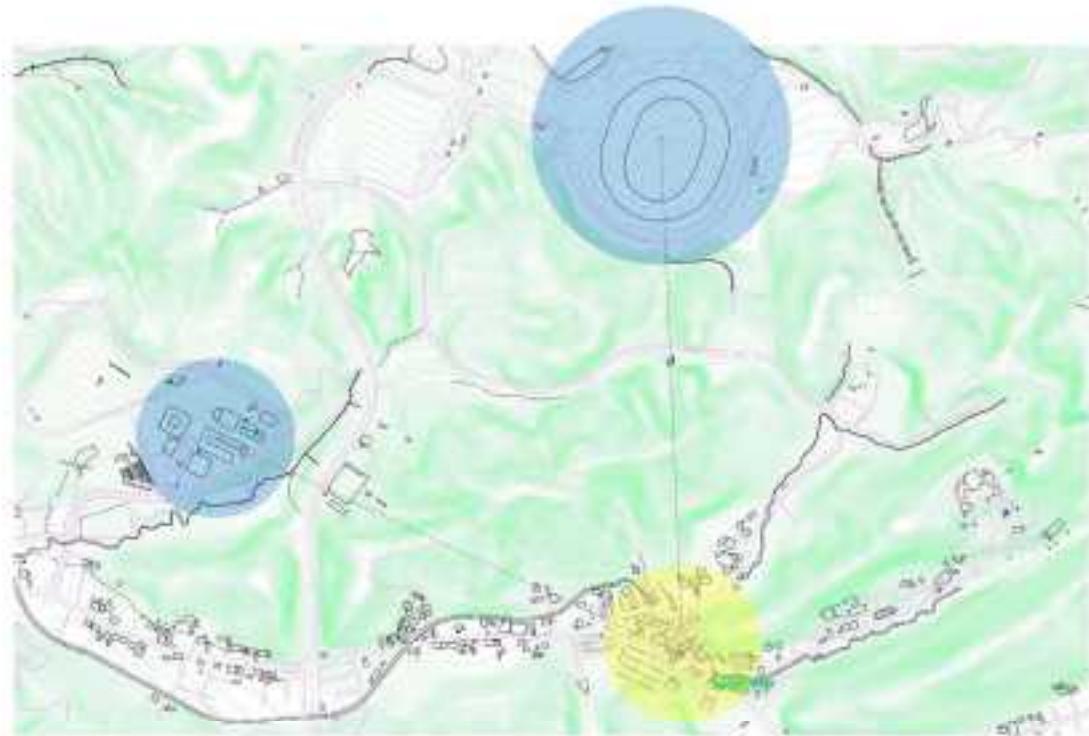
もんぜんまち + α

SITE

敷地は、静岡県西部、袋井市小笠山にある。敷地内は、尊永寺の境内へ続くストリートが川に沿って敷かれ、川には川床として食事処や土産物屋が軒を連ねる。敷地周辺には、2 kmの地点に地元大学、5万人収容規模の多目的競技場がある。



1. 袋井市高上り小笠山本町 2. 袋井市高上り小笠山本町 3. 袋井市高上り小笠山本町 4. 袋井市高上り小笠山本町 5. 袋井市高上り小笠山本町 6. 袋井市高上り小笠山本町



BACKBORN

背景（問題提起）

1. 商業空間の在り方について

課題 道路境界に迫ったリースライン

店舗までにもう1段階あつたら…道と店舗。その間に安全地帯的空間があつたら店舗はその空間に店の特徴や品書きを書いた看板などを置き客に興味をもたせるきっかけをつくることができるのではないかだろうか。また、店のインテリアをエクステリアに拡張させることで知らず知らずのうちに客を店舗へ誘導するなんてことも可能かもしれない（仲見世化）。

解決 ・壁面ラインのずらし（ヒリースライン）

・店舗の仲見世化



2

2. 街の居場所について

課題 動線としてのみ機能するストリート

人が滞留する余地が町がない、訪れた人がそこで暮らし方を自由に選択できたら、人々が町に滞在する時間が延びるのではないかだろうか。

解決 ストリートのパブリックスペース化

幅員拡張

店舗の店先開放



1. 生きる門前は古跡
商店街の入り口に建つのは
この駄菓子の本店。
店舗を前に広げて行き。
2. 駄菓子、菓子店のエントランスにキャラ
クターを配置したハーモニー空間。

LAYOUT PLAN



1. 店舗配置を解体し敷地全体規模で再構築
川を軸に4つのコミュニティで町をゾーン分けする



2. 各コミュニティの個々の建物の間を縫う形で真っ白なサブのストリート
が生まれ、近隣のコミュニティや店舗間、人の行為を流動的に支援する



3. 原則幅員5メートルとして建物をレイアウト、コミュニティ同士の
間や敷地のアウトラインに隙間ができるがそこはストリートからの
流動的な溢まりとして機能する



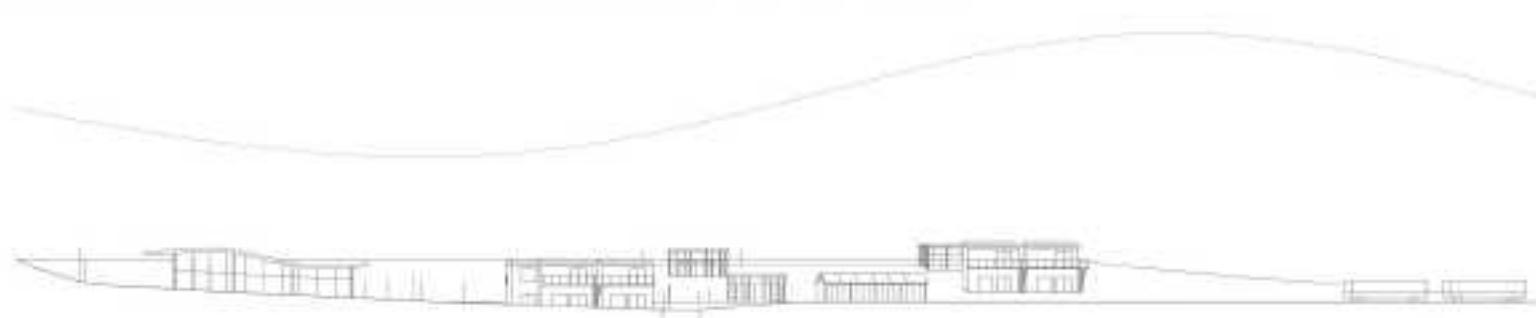




ごりやくカフェの立面図 ショップアンドホテル、川、ゆらゆらほーるの断面図 s=1/300



山のふもとの劇場から町家具実験工房までの立面図 s=1/300



north elevation s=1/300

